

<その他、取組に特徴のある事例>

○交付金を有効利用し、獣害防止電気柵の自己施工

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	山梨県北杜市武川町 <small>ほくとしむかわまち</small> 柳澤 <small>やなぎさわ</small>			
協定面積 41ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交付金額 364万円	個人配分 50%			
	共同取組活動 (50%)	役員活動に対する報酬、会議費、事務費		8%
		既設電気柵維持管理		16%
		泥上げ、草刈り等		12%
	積立		14%	
協定参加者	農業者 86人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当地区は、南アルプス国立公園内赤石山脈の北端の甲斐駒ヶ岳の裾野に広大に広がる地に位置する。大部分の農地が山際に面しており、また甲斐駒ヶ岳の湧水を源流とする清流が流れ、このミネラルたっぷりの水で生産される「武川米」は絶品と評され、他に類を見ない幻の米の産地である。しかしながら、野生鳥獣の出没が年々増加し、稲作被害があとを絶たない状況にあり深刻な問題となっていた。

こうしたなか、当地区においては、地域の農地と武川米を後世に引き継ぐことを目的とし、獣類の侵入防止と農地の荒廃防止に協定全体で取り組むこととなった。

3. 取組の内容

協定参加者全員が協力し、次のような獣害対策を計画的に実施した。

- 現地調査による被害状況の把握と防止対策の検討
- 電気柵の設置（自己施工、延長 3.8 km）による侵入防止
- 電気柵周辺の支障木除去や除草、施設の維持管理活動の継続的な実施



【電気柵設置状況】



【電気柵の管理状況】

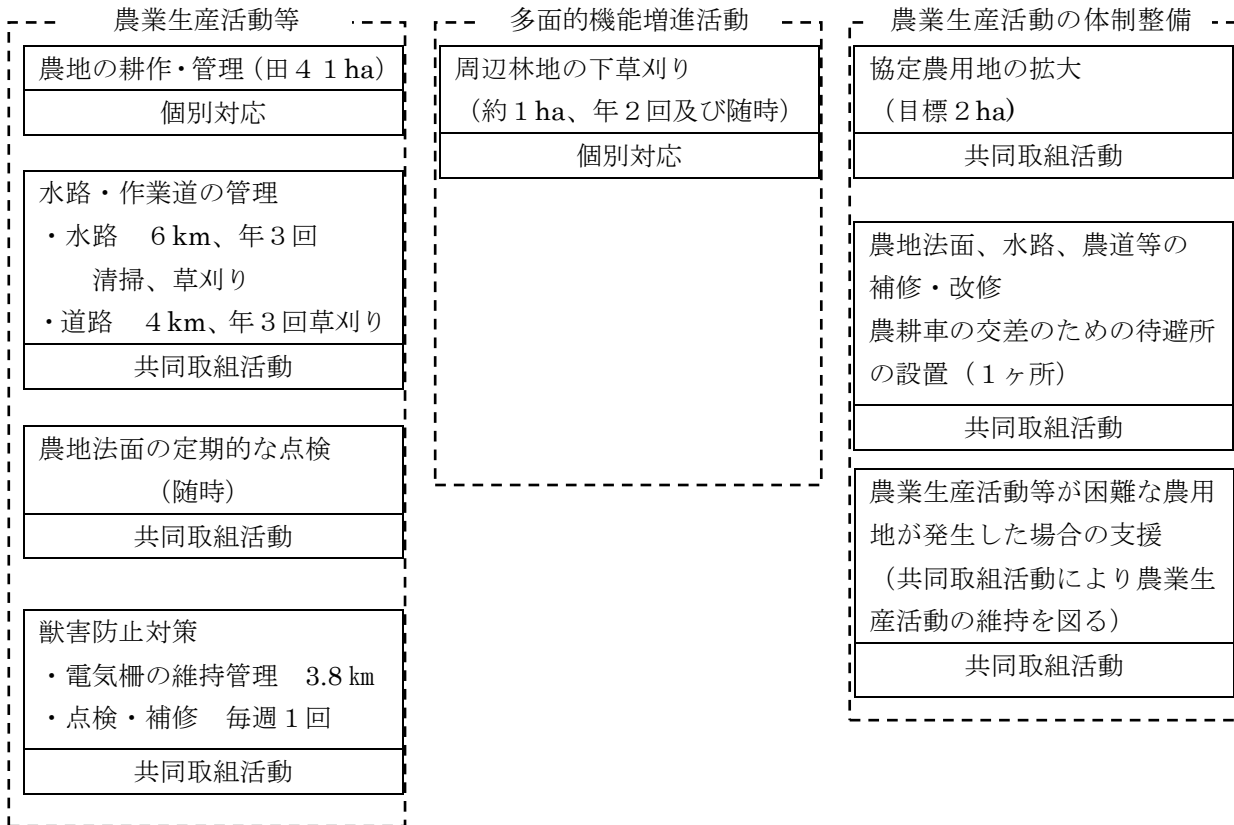
[集落の将来像]

農道や水路の改修を行うなど、高齢者が安全に農作業を実施できる環境を整える。
電気柵の維持管理に加え、エサとなる樹木の伐採等を行うことで鳥獣害に強い地域環境を整える。
地域が協力し、農地の保安全管理を行う体制を構築し、美しい農村環境を後世に残していく。



[将来像を実現するための活動目標]

- 野生獣の侵入防止の強化、施設の維持管理
- 農道脇の水路を利用した農耕者退避場所の設置
- 地域一体による農地の保安全管理による荒廃農地の未然防止



集落外との連携

- 隣接集落協定との鳥獣害発生状況に関する情報交換

4. 今後の課題等

電気柵の持続的な維持管理を協定全体で取り組むなど、安心して稲作に取り組める環境づくりを進め、今後も武川米の産地である農地を維持していく。

[第2期対策の主な成果]

年々増える有害鳥獣による農作物の被害を防ぐため、簡易電気柵を設置した。電気柵設置に伴い周辺の支障木の処理や除草作業などを実施して緩衝帯を設け、有害鳥獣が近づきにくい環境を整えた。
こういった取組は、協定農用地内で有害鳥獣による農作物被害を減少させ、地域農業の維持により集落機能が活性化された。